

B205 テネベナール5%フロアブル剤を用いたチャバネゴキブリ難防除物件における防除事例

○佐々木健¹, 棚野泰², 藤野裕² (¹アペックス産業株式会社, ²三井化学アグロ株式会社)

Case by the pest control using TENEBENAL at the restaurant where the cockroach control is difficult.

○Takeshi Sasaki¹, Yasushi Nagino², Hiroshi Fujino² (¹Apex Pest Control Co., ²Mitsui Chemicals Agro, Inc.)

チャバネゴキブリ防除を行うペストコントロールの現場では、チャバネゴキブリの生息数を減少させることの困難な難防除物件に遭遇することがある。

演者が管理する東京都内のビル内飲食店では、長期に亘ってピレスロイド系や有機リン系殺虫剤、また多種のベイト剤を使用してチャバネゴキブリの防除を行ってきたが、生息数の減少が思わしくなく、難防除化していた。

そこで今回、三井化学アグロが開発した新規殺虫原体テネベナール（一般名プロフラニリド）5%フロアブル剤の現場での効果を見るため、当該飲食店における殺虫実地試験を行った。

試験は2017年11月～2018年3月に行い、東京都内の複合商業ビルにある日本料理店厨房部分（24 m²）に、チャバネゴキブリ捕獲用粘着トラップを配置し虫体の捕獲指数を算出、薬剤処理前と処理後の値から、駆除率を算出した。薬剤処理は、1回目の処理としてテネベナール5%フロアブル剤50倍希釈液をB&G社製ハンドスプレーヤーを用いて、50ml/m²となるように厨房床面や壁面、その他チャバネゴキブリが徘徊する箇所を中心に散布した。その7週後、処理が不十分と考えられた箇所4 m²に2回目の処理として、同薬剤希釈液200mlをE.D.S社製アクチゾールコンパクトを用いて、隙間噴霧処理を行った。

結果は薬剤処理前の捕獲指数2.81から、1回目薬剤処理の3週後に0.17と94%の駆除率を得ることができた。さらに2回目薬剤処理を経て、13週後捕獲指数は0.00と駆除率は100%となり、これまでの薬剤に比べ非常に高い効果を得ることができた。